

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス豊見城教室		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 5日		～ 令和 8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47名	(回答者数) 47名
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 5日		～ 令和 8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・十分な広さがあり、児童がそれぞれのやりたいことや情緒に合わせて活動することが出来る。	・広い庭を使って、サッカーやキックベースボール等、学校や地域でも行うような集団あそびも取り入れている。	・児童に人気のある運動のみならず、新しい集団あそびを提供し、ルール理解の向上や、地域での遊びの幅を広げていく。
2	・年齢が幅広く、異年齢での交流が出来る。	・活動のグループ分けなどでも、意図的に異年齢交流の機会を作っている。	・課題に応じて、グループの中でも役割を与え、相手の事を考える言葉かけや行動に対してSST(ソーシャルスキルトレーニング)が出来る機会を作っていく。
3	・柳沢運動プログラムに基づいた運動療育の実施。	・運動療育支援員の資格試験を積極的に受講し、専門的な運動療育が提供できる環境を作っている。 ・児童が飽きないように、運動の担当をローテーションにし、様々な運動に取り組んでいる。	・月に一度のこどもプラスホールディングス本部からの研修を受講し、運動のレパートリーを拡充していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・もっと密に報告・連絡・相談をする必要がある。	・在籍している児童数が多い。	・毎礼での振り返りを行っているが、情報の優先順位を付け、すぐに周知が必要な物は職員のグループLINEで事前に伝える等、工夫をしながら共有していく。
2	・整理整頓を徹底する。	・置き場所が決まっていない物に対して、各々が使いやすい様に使っている事がある。	・業務の効率化を検討し、全ての物の配置を決めていく。 ・児童も使える物についても、誰が見ても片づける場所が分かるように視覚的な貼り出しをしていく。
3	・運動遊び実施時や、フリーな活動中の安全面の確保が出来ていない時がある。	・児童の個別対応中、周りにいる他の児童も情緒が落ち着かなくなったり、対応する優先順位を変更できない時がある。 他職員への声かけや、個別対応中の児童に少しく待ってもらったりなど、視野を広げて対応する必要性を感じている。	・児童対応中の優先順位の付け方について、朝礼や終礼で議題に挙げる頻度を増やしていけるように努める。